

# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成23年12月号 目次

## 【トピックス】

魚介類中の動物用医薬品検査結果(その2) .....	1
横浜市における自殺の現状(平成22年) .....	2

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成23年11月 .....	5
-------------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成23年11月分) .....	10
--------------------------------	----



## 魚介類中の動物用医薬品検査結果(その2)



平成23年10月に食品専門監視班が収去した、市内に流通するエビ5件(うち冷凍食品2件)及びイカ3件(うち冷凍食品2件)の計8件について、抗生物質のテトラサイクリン系(3項目)及びクロラムフェニコール、並びに合成抗菌剤のニトロフラン類(3項目)及びエンロフロキサシン等(28項目)について計35項目の検査を行いました。その結果、表に示すとおり、すべて不検出でした。

表 抗生物質、合成抗菌剤の検査結果\*

項目名	検査結果 (カッコ内は基準値)				検出限界
	エビ<3件>	冷凍エビ<2件>	イカ<1件>	冷凍イカ<2件>	
<b>【抗生物質】</b>					
オキシテトラサイクリン	N.D. (0.2)	N.D. (*)	N.D. (0.2)	N.D. (*)	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.03
テトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
クロラムフェニコール	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.0005
<b>【合成抗菌剤】</b>					
ニトロフラントイン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラゾリドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラルタドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.005
オキシリニック酸	N.D. (0.03)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルビフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルメトプリム	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
クロピドール	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
サラフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ジフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファキノキサリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジアジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジミジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジメトキシ	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファドキシ	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファピリジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメキサゾール	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメラジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファモノメトキシ	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ダノフロキサシン	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
チアンフェニコール	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
トリメトプリム	N.D. (0.05)	N.D. (*)	N.D. (0.05)	N.D. (*)	0.02
ナリジクス酸	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ノルフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ピリメタミン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
ピロミド酸	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
フルメキン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
フロルフェニコール	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
マルボフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 \*:「含有しない」

\*冷凍食品と魚介類は基準値が異なります。

【検査研究課 微量汚染物担当】

# 横浜市における自殺の現状(平成22年)

## －神奈川県警提供のデータの解析－

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定されました。

横浜市でも自殺対策に係る庁内の密接な連携と協力により、自殺対策の推進を図るため、平成19年9月から横浜市庁内自殺対策連絡会議が設置されています。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より「平成22年中の横浜市における自殺者」のデータの提供を受け、解析しましたので、その概略を報告します。

詳細は、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/> に掲載しています。

### 1 総自殺者数および性別自殺者数

平成22年の横浜市における総自殺者数は、746人(男性:529人、女性:217人)で、男性が70.9%を占めました。平成21年の総自殺者数(663人)と比べ、12.5%増でした。

### 2 年齢階級別自殺者数

年齢階級別に自殺者数をみると、男性で最も多いのは40歳代で117人(22.1%)、女性では60歳代で44人(20.3%)でした(図1)。

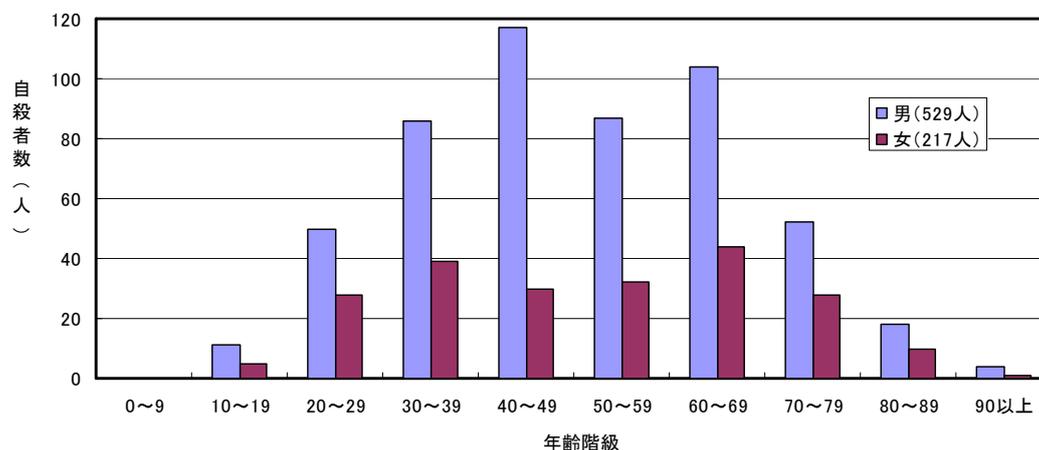


図1 性・年齢階級別自殺者数

### 3 月別自殺者数

月別に自殺者数をみると、7月と10月が73人(9.8%)で最も多く、次いで11月が68人(9.1%)でした。性別にみると、男性では7月が55人(10.4%)で最も多く、女性では10月が26人(12.0%)でした(図2)。

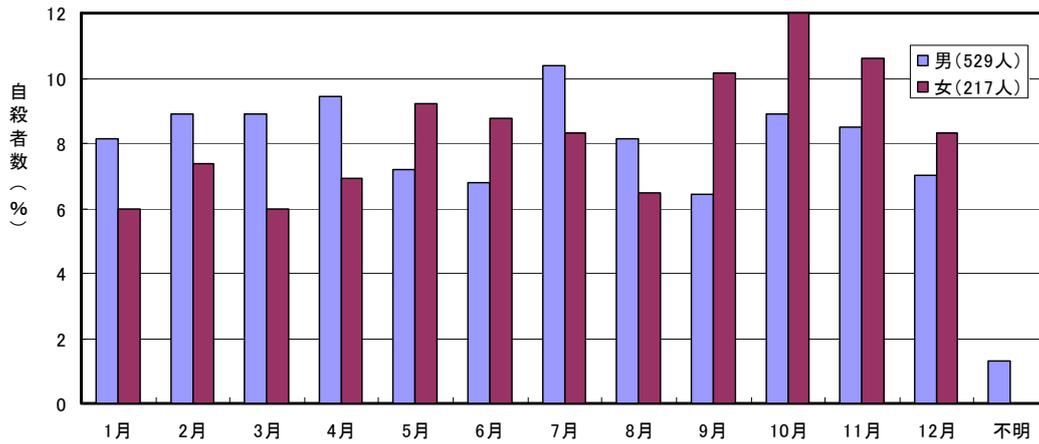


図2 月別自殺者数

#### 4 曜日別自殺者数

曜日別に自殺者数をみると、木曜日が112人(15.0%)で最も多く、次いで月曜日が103人(13.8%)、金曜日が101人(13.5%)でした。性別にみると、男性では月曜日が82人(15.5%)で最も多く、女性では日曜日と金曜日が38人(17.5%)でした(図3)。

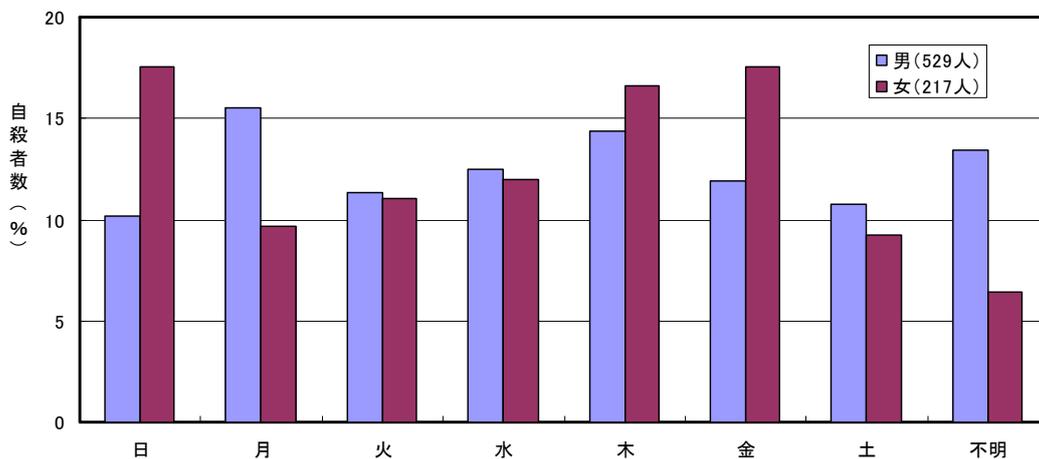


図3 曜日別自殺者数

#### 5 時間別自殺者数

自殺の時間が判明した者439人(男性310人、女性129人)について、時間別に自殺者数をみると、14時台が34人(7.7%)で最も多く、次いで0時、9時、12時台が26人(5.9%)でした。性別にみると、男性では14時台が25人(8.1%)で最も多く、女性では12時台が11人(8.5%)でした。

#### 6 自殺の場所

自殺の場所別に自殺者数をみると、男女共に「自宅」が最も多く、男性326人(61.6%)、女性167人(77.0%)でした。次いで多いのは、男性では「公園」33人(6.2%)で、女性は「高層ビル」14人(6.5%)でした。

横浜市で発見された自殺者746人(男性529人、女性217人)のうち、居住地が市内の者は718人(男性509人、女性209人)で、全体の96.2%を占めていました。

一方、自殺者の居住区と発見された区に違いがあるかをみると、居住区と同じ区で発見された者は654人(男性456人、女性198人)で、全体の87.7%でした。

さらに、自宅以外で自殺した者253人(男性203人、女性50人)についてみると、居住区と同じ区で発見さ

れた者は164人(男性131人、女性33人)で、自宅以外で自殺した者の64.8%を占めていました。

## 7 自殺の手段

自殺の手段別に自殺者数をみると、男女共に「首つり」が最も多く、男性304人(64.0%)、女性107人(56.9%)でした。次いで多いのは、男性では「練炭等」で51人(10.7%)、女性では「飛降り」で33人(17.6%)でした。

## 8 自殺の場所と手段の関係

自殺の場所ごとに自殺の手段の内訳をみると、男女共に「自宅での首つり」が最も多く、男性266人(50.3%)、女性126人(58.1%)でした。次いで多いのは、男性では「公園での首つり」29人(5.5%)、「高層ビルからの飛降り」と「その他での首つり」21人(4.0%)で、女性では「自宅からの飛降り」16人(7.4%)、「高層ビルからの飛降り」14人(6.5%)でした(表1)。

表1 自殺の場所と手段の関係(上位10位)

男					女				
順位	場所	手段	人	(%)	順位	場所	手段	人	(%)
1	自宅	首つり	266	50.3	1	自宅	首つり	126	58.1
2	公園	首つり	29	5.5	2	自宅	飛降り	16	7.4
3	高層ビル	飛降り	21	4.0	3	高層ビル	飛降り	14	6.5
3	その他	首つり	21	4.0	4	自宅	その他	8	3.7
5	自宅	練炭等	20	3.8	4	鉄道線路	飛込み	8	3.7
6	自宅	飛降り	14	2.6	6	自宅	服毒	6	2.8
6	鉄道線路	飛込み	14	2.6	7	自宅	練炭等	5	2.3
8	乗物	練炭等	13	2.5	8	海・湖・河川	入水	4	1.8
9	勤め先	首つり	12	2.3	9	自宅	刃物	3	1.4
10	その他	飛降り	10	1.9	9	病院	首つり	3	1.4
					9	駅構内	飛込み	3	1.4
					9	その他	飛降り	3	1.4

## 9 職業カテゴリ

職業別に自殺者数をみると、男女共に「無職者」が最も多く、男性271人(51.2%)、女性171人(78.8%)でした。次いで多いのは「被雇用者・勤め人」で、男性176人(33.3%)、女性28人(12.9%)でした。

ほかにも、原因・動機(判断資料の有無)、自殺未遂歴、及びそれらの項目の組み合わせ等について解析しています。結果については、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/> をご参照ください。

# 感染症発生動向調査委員会報告 11月

## 《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。
- インフルエンザが報告されはじめています。今後の動向に注意が必要です。
- 感染性胃腸炎が漸増しており、今後の注意が必要です。

## 全数把握疾患

### ＜腸管出血性大腸菌感染症＞

1件の報告がありました(O157 VT1VT2)。感染経路等不明です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

◆家庭でできる食中毒予防のポイント(動画)<http://www.youtube.com/watch?v=TI03jn2E1bU>

### ＜レジオネラ症＞

3件の肺炎型の報告がありました。感染経路等調査中です。

### ＜アメーバ赤痢＞

2件の腸管アメーバ症の報告がありました。1件は国内での経口感染が推定され、もう1件は感染経路感染地域等不明です。

### ＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

1件のA群溶連菌による報告がありました。50代男性で、咳等の感冒様症状に引き続き、左胸背部痛、発熱で発症しました。本症は突然の発病と、発病から病状の進行が非常に急激なことが知られています。国立感染症研究所のホームページによると、最も一般的な初期症状は疼痛で、続いて圧痛あるいは全身症状が見られます。疼痛の開始前に、発熱、悪寒、筋肉痛、下痢のようなインフルエンザ様の症状が20%の患者にみられ、全身症状としては、発熱が最も一般的ですが、患者の10%はショックによる低体温を示します。抗菌薬としてはペニシリン系薬が第一選択薬です。また、組織内の菌密度が上昇すると菌の発育が抑制され、βラクタム系薬の効果が低下する現象が知られており、極端な敗血症病態では、細胞内移行性の高いクリンダマイシンを推奨する意見もあります。

◆国立感染症研究所:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02\\_g2/k02\\_46/k02\\_46.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g2/k02_46/k02_46.html)

### ＜バンコマイシン耐性腸球菌感染症＞

1件の報告がありました。遺伝子型は現在検査中です。感染経路感染地域等不明です。臨床上問題にされ、院内感染対策の対象となっているのはvanAまたはvanB遺伝子を保有する腸球菌です。一方、vanC型は今のところ、欧米でも重篤な感染症を引き起こしたとの報告は稀であり、また、健常者でも入念に検査した場合少なくとも数%から分離されると言われており、「常在菌」的性格も強く、院内感染対策の対象にはなっていません。しかし、感染症法では、vanC型による重症感染症の発生状況を正確に把握するため、血液や髄液など通常無菌的であるべき臨床材料からvanC型が分離された場合には報告対象に含めています。

◆国立感染症研究所:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02\\_g1/k02\\_16/k02\\_16.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_16/k02_16.html)

<麻しん>

ワクチン接種歴2回の児童で、修飾麻しんの報告が1件ありました。血清IgM2.07で、発疹を認めたため診断となりましたが、現在PCR検査で確認中です。

- ◆国立感染症研究所:麻しんの検査診断アルゴリズム <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/pdf01/arugorizumu.pdf>
- ◆国立感染症研究所:麻しん届出ガイドライン [http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/doctor\\_ver3.pdf](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/doctor_ver3.pdf)

定点把握疾患

平成23年10月17日から11月20日まで(平成23年第42週から第46週まで。ただし、性感染症については平成23年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成23年 週一月日対照表	
第42週	10月17日～23日
第43週	10月24日～30日
第44週	10月31日～11月 6日
第45週	11月 7日～13日
第46週	11月14日～20日

1 患者定点からの情報

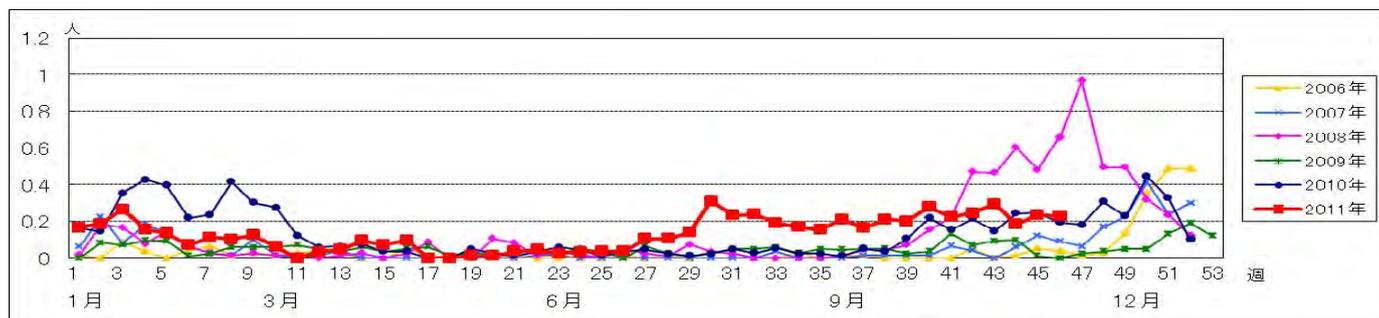
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

第43週に定点あたり0.08、44週0.16、45週0.12、46週0.08と、少しずつ報告がみられています。迅速キットの結果は8割ほどがA型で、残りはB型です。ポストパンデミックに入った2010/11シーズンはAH1N1pdm09、AH3亜型、B型ウイルスの混合流行であり、この夏の南半球(夏季)でも3種類のウイルスが混在しています。南半球の流行状況はその後の北半球での流行状況の参考となることから、国内でも今シーズンも多様なウイルスの流行が予想されています。

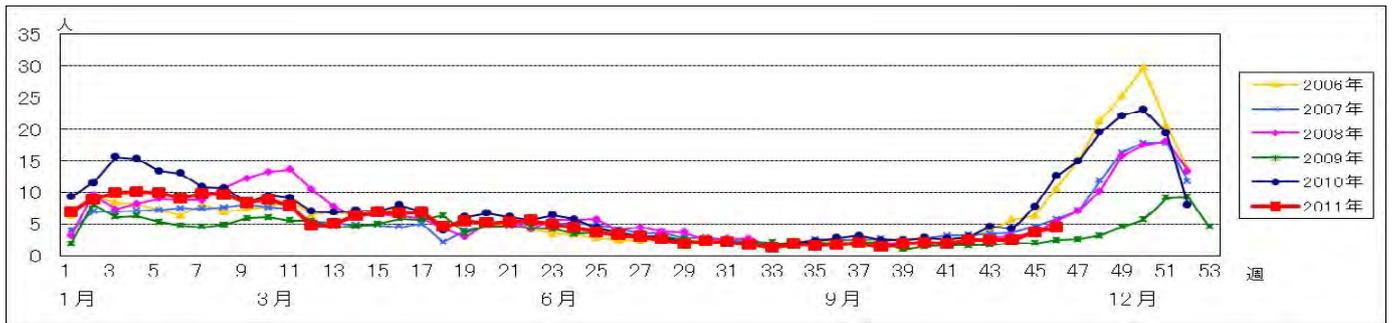
<RSウイルス感染症>

今年は全国的に流行の立ち上がりが早く見られました。横浜市でも、例年より早い30週あたりから定点あたり0.20を超えましたが、その後はほぼ横ばいが続いています。例年冬にかけて流行するため、今後の注意が必要です。



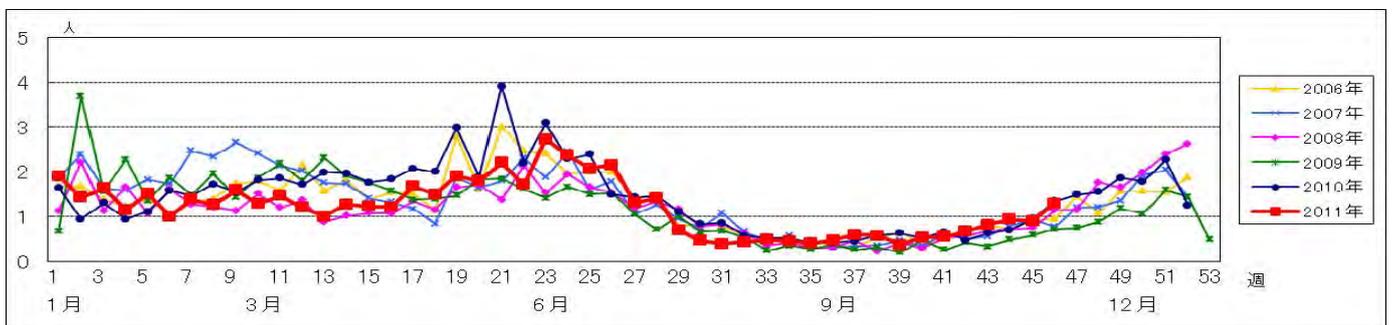
<感染性胃腸炎>

市内全体では現在のところ落ち着いていますが、44週 2.38、45週 3.71、46週 4.32と漸増しています。区別では46週で泉区 9.67、南区 8.33、神奈川区 7.17、鶴見区 7.00と増加がみられており、今後の流行期に向けて注意が必要です。



<水痘>

市内全体では現在のところ落ち着いていますが、44週0.93、45週0.89、46週1.29と、少しずつ上昇しています。今後の注意が必要です。



<手足口病>

横浜市内の流行も落ち着き、第46週では警報レベルは瀬谷区2.00のみとなりました。

<性感染症>

10月では、性器クラミジア感染症は男性が19件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が2件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が8件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に第24週頃から増加傾向にあり、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、44週では1.15と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第43週では定点あたり2.00、44週2.00、45週0.00、46週4.00と、昨年の43週0.67、44週0.33、45週0.00、46週0.00を上回っています。他の疾患では、44週に無菌性髄膜炎の報告が1件ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

10月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症5件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

### <ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(眼脂)、基幹定点15件(鼻咽頭ぬぐい液7件、髄液5件、ふん便3件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎21人、気管支炎10人、発疹症4人、手足口病3人、咽頭結膜熱2人、耳下腺炎1人、ヘルパンギーナ1人、発熱1人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、急性結膜炎1人、基幹定点は髄膜炎2人(5検体)、けいれん2人(4検体)、骨髄炎1人(2検体)、発熱1人(2検体)、発疹症1人(1検体)、胃腸炎1人(1検体)でした。

12月9日現在、小児科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルス2型、咽頭結膜熱患者2人、発疹症患者1人、気管支炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、手足口病患者3人と発疹症患者1人からコクサッキーウイルスA16型、ヘルパンギーナ患者から単純ヘルペスウイルス1型、上気道炎患者1人からRSウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者1人と気管支炎患者1人からRSウイルス、上気道炎患者1人からエコーウイルス6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

11月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から2検体、基幹定点から菌株受付が8件、定点以外の医療機関等からは4件あり、腸管病原性大腸菌、腸管出血性大腸菌、腸管毒素原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクター、黄色ブドウ球菌が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から11件で、A群溶血性レンサ球菌が7件、肺炎球菌が1件検出されました。基幹定点からはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が1件、定点以外の医療機関等からは12件で、バンコマイシン耐性腸球菌が2件、*Legionella pneumophila*が1件、結核菌が3件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(11月)

感染性胃腸炎							
検査年月		11月			2011年1月～11月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		2	8	4	11	116	84
菌種名							
赤痢菌						3	8
腸管病原性大腸菌			1			8	
腸管出血性大腸菌				1		1	47
腸管毒素原性大腸菌			1			6	
腸管凝集性大腸菌						1	
パラチフス A 菌						3	
サルモネラ				1	2	16	12
カンピロバクター		1			1		3
黄色ブドウ球菌		1			1	1	2
コレラ菌							2
NAG ビブリオ							2
クロストリジウム							1
不検出		0	6	2	7	77	7
その他の感染症							
検査年月		11月			2011年1月～11月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		11	1	12	84	11	109
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌					7		
T1							
T3					4		
T4		1			5		
T12					9		
T25					2		
T28		2			6**		1
T B3264		4			16		
型別不能					2		
B群溶血性レンサ球菌							12
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1			7	16
バンコマイシン耐性腸球菌				2			17
<i>Achinomyces</i>							1
<i>Branhamella</i>					1**		
<i>Legionella pneumophila</i>				1			10
インフルエンザ菌					9**		
肺炎球菌		1			6**		
<i>Arcanobacterium haemolyticum</i>						1	
<i>Campylobacter fetus</i>						1	
結核菌				3			3
不検出		3	0	6	17	2	49

\* : 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

\*\* : 同一検体から複数菌検出

T(T型別) : A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成23年10月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成23年11月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成23年10月のアクセス件数、アクセス順位及び平成23年11月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成23年10月)

平成23年10月の総アクセス数は、194,425件でした。主な内訳は、感染症68.8%、食品衛生9.8%、保健情報7.0%、検査情報月報4.8%、生活環境衛生1.9%、薬事0.9%でした。

### (2) アクセス順位 (平成23年10月)

10月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について」、第3位が「アメーバ症、主にアメーバ赤痢について」でした。

マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多く、毎月上位にランクインしています。国立感染症情報センターの報告によりますと、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、第25週(6月20日～26日)以降は1999年の調査開始以降の同時期と比較して最も多い報告が続いており、特に第40週(10月3

日～9日)以降は1.00を超えた状態が継続しています。なお、マイコプラズマ肺炎のサーベイランスは、全国約500か所の基幹定点医療機関(2次医療圏域毎に1か所以上設定された、300人以上収容する施設を有する病院)からの週毎の報告に基づいています。マイコプラズマ肺炎の治療は、抗菌薬投与による原因療法が基本です。これまでは、マクロライド系抗菌薬が第一選択薬とされてきましたが、近年マクロライド系抗菌薬に対する耐性株の割合が増加しつつあるという指摘もあり、耐性株に関する情報にも注意していく必要があります。

ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)は、本市では、予防接種(定期接種)を1年に2回、春と秋(4月と10月)に行政区の福祉保健センターで実施しています。現在、厚生労働省で不活化ポリオワクチンの導入に向けた取り組みが進められていますが、国内での導入は、早くても2012(平成24)年度の終わり頃の予定とのことです。不活化ワクチンが導入されるまで、ワクチンを接種せずに様子を見る人が増えると、免疫を持たない人が増え、国内でポリオの流行が起こってしまう危険性があります。ポリオワクチンを接種することが、ポリ

表1 平成23年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	21,466
2	ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について	6,145
3	アメーバ症、主にアメーバ赤痢について	5,858
4	RSウイルスによる気道感染症およびパルピズマブ(シナジス)について	5,427
5	インフルエンザワクチンについて	4,613
6	衛生研究所トップページ	4,587
7	手足口病について	3,508
8	サイトメガロウイルス感染症について	2,508
9	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,356
10	感染症情報センター	2,354

データ提供:総務局IT活用推進課

オを予防する唯一の方法です。

厚生労働省のポリオワクチンのホームページ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/index.html>

保護者向けのリーフレット [http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/polio\\_vaccine.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/polio_vaccine.pdf)

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成23年11月）

平成23年11月の問い合わせは、7件でした(表2)。

表2 平成23年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
EBウイルスについて	1	感染症・疫学情報課
狂犬病について	1	感染症・疫学情報課
エキノコックスの検査について	1	感染症・疫学情報課
トキソプラズマについて	1	感染症・疫学情報課
五類定点疾患報告数の情報提供について	1	感染症・疫学情報課
リステリア症について	1	感染症・疫学情報課
横浜市の学校給食における一日分食材の放射性物質の測定について	1	健康福祉局食品衛生課

## 2 追加・更新記事（平成23年11月）

平成23年11月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 平成23年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 7日	【パンフレット】子宮頸がんを予防するワクチンを知っていますか？	更新
11月 7日	リステリア症について	更新
11月 8日	感染症に気をつけよう(11月号)	追加
11月11日	狂犬病について	更新
11月17日	2011(平成23)年度のインフルエンザワクチンについて	追加
11月18日	インフルエンザワクチンについて	更新
11月28日	横浜市における自殺の現状 - 神奈川県警提供データの解析 - (平成22年)	追加

【 感染症・疫学情報課 】